

かわべ

発行
河辺村公民館
編集
編集委員会
館報編集委員会
河辺 17番
佐川印刷 KK
吉田町北小路 2-0600

わが村の基幹作目の現状と見とおし

椎茸生産向上の見とおし

過疎化の激しい河辺は林業の村ですが、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

戦後の経済成長の続くまで我が村は、木炭の生産が盛んでしたが、化学燃料の普及により、木炭の需要はなくなり、椎茸の生産へと移り変わってきました。

やはり悩みは原木確保のむづかしさの音が一番多いようです。

これには椎茸生産の急激な伸びにより原木の乱伐が生じ、今では村内必要量の七〇％前後は毎年温泉郡、伊予郡、西宇和郡方面より購入して需要を満たしている実状です。

将来椎茸の生産を維持し、安定した生産経営をするには自家原木の保有こそが肝心です。

生産者はクヌギとスギの造成が大事で、森林組合のスローガンとして一本でも多くクヌギを植えることを呼びかけ、古ボク木より一枚でも多く生産をあげるよう指導にあたっています。

経済界の不況で、出稼者の中にもUターンして椎茸生産に従事している人達が数多いようですが、不足から産地買いの激化を招き、高値をよび品質も厳選しないという。生産者としては喜ばしい時期であるといえます。

しかし、全国的な生産増に加え、外国からの輸入、特に韓国産は日本産と同品種であるなど生産過剰になることも予測されます。

このような情勢に対応するため、長期展望を踏まえて技術的な改善、体制の整備強化により、生産農家の所得の安定を計るべき施策が必要になります。

台風接近の雨の中を約一八〇名が出席し、河辺小学校講堂において総会が開かれ、五十一年度事業報告、収支決算、五十二年度事業計画、収支予算等が原案通り決定された。

方針としては、近年果は堅調な需要を反映し、全国的に新植が進められて来ましたが、本村の場合、生産量は老木化に加えて病虫害被害

過疎の歯止めのためにも、村内でも重要な椎茸産産を、村民一体となって伸展をはかりたいと思っております。

関係機関の指導と援助をお願いいたします。

森林組合長 高橋 武夫

河辺村人口動態

(S. 52.9月1日現)

世帯数	618
人口	2,312
男子	1,155
女子	1,157

(S. 50.10 国調)

世帯数	666
人口	2,368

(S. 45.10 国調)

世帯数	718
人口	2,810



うれしい悲鳴をあげての栗集出荷風景

現況では営農指導の強化により施肥・防除・間伐・縮伐等の現地指導、先進地視察研修を行ない、良品種作りを実施してまいります。

所得税対策では、系統利用者が不利を見ないよう対策をとってまいります。

予約前渡金は七〇パーセント以内で行ない、代金支払いは十五日

長年の労苦に感謝して

敬老行事 4 地区で開催

九月十五日、式典等があり、午後は公民館分館と婦人会による敬老会が、会場ごとに特色を生かし多彩な演奏と老人及び来賓の方々のとび入り等が披露され、大変なごやかな中にお年寄りの方々にも満足していただき、すべての行事を終了いたしました。

敬老の日の行事に協力下さった村当局をはじめ婦人会、公民館、各小学校、その他関係機関に対し厚くお礼申し上げます。

又、村民の皆様ならびに来賓の方々には多額の厚志をいただき、ありがとうございます。

◎六十五才以上の地域別老人数、老人優良看護者

片岡貴美子 (中居)

(社会福祉協議会)

川崎地区 一一名 (七七)

大伍地区 一五名 (四二)

北平地区 一七五名 (四九)

最高令者の祝い

大川 定助 九七才 (神納)

米寿の祝い

和氣 助七 (下大成)

林 沢子 (下名場連)

柿本長太郎 (大中山)

満九〇才以上の祝い

高橋 スエ 九〇才 (横谷)

上野イシヨ 九〇才 (川上)

寿野兼太郎 九二才 (日其川)

山本ヒヤク 九四才 (神納)

「ふる里は遠きにありて思ふもの、そして寂しく歌うもの」

私も離村者として、ふる里は生涯の支えとなつて生きてくるものです。今まで帰省のたびにふる里は、昔ながらの山紫水明ながら、その中ににか「山河荒れたり」といったような感慨をいだいたものでしたが、現在の河辺村は交通体系の整備、教育文化設備の充実等、めざましいものがあると感じています。これらはすべて、村の為政者を始め村民各位のたゆまぬ努力の結果だと、敬意と感謝の気持ちをもっているものであります。

私も出郷以来四十年を経過しましたが、いつまでもたつても蛙の子は蛙、故郷は忘れられないものです。

昭和四十五年に過疎地域振興緊急措置法が議員立法された時、その過疎の文字と重なつて故郷河辺の山河が眼底をかすめたものでした。私もいわば離農の「はしり」をつとめた一人です。

当時と現在では社会状況の差異はあるものの、郷関を去る者の心境は複雑であり物心両面の不安はつきまとうものです。

出郷以来、常に社会の底辺に息をしながら「ホーム」のような漂泊の後に、ようやく安住の地をえたと思つたものか、聞

ふるさとのみなさんへ

名古屋市 竹林 宗久

私の居住する港区は工業地帯で、就業者が多く、犯罪のほろから、そうした人達の心のよりに、昭和三十三年に港区役所の後援のもとに「港区短歌詩文協会」を創設、私個人としても歌誌「空木」を創刊したりしました。

現在は中部短歌会同人として断続的に歌作している程度ですが、私にとって短歌は道徳教育にも優つていたと言つても過言ではないと思つております。

私も有為転変とも言つべき半生の後、ちょうど十年前に脱サラリーマンを指向、有限会社喜多製作所及び竹林工業所を設立しました。従業員も一時は百名を越えたこともありましたが、いわゆる石油ショック以来漸減して、現在では二十七名で細々と糊口をしのいでおります。

私達離村者は、いわば大樹を離れた落葉のようなもので、散りじりに離散しながらも、遙かな母の樹である郷に恩懐と慕の念をもちつづけております。どうか皆さん、一人でも多く郷里にこそごまごまの地をおまもり下さい。

河辺村の繁栄と皆さんの御多幸をお祈りいたしております。

空襲により二度被災、敗戦により失業、さらに伊勢湾台風時には床上浸水して、家財の大半を流失するなど七転八起ともいふべき半生でした。こうした環境下であつた時には絶望的な荒意感におそれたこともしばしばでした。

こんな時に私を救つてくれたのが、現在の河辺村は交通体系の整備、教育文化設備の充実等、めざましいものがあると感じています。これらはすべて、村の為政者を始め村民各位のたゆまぬ努力の結果だと、敬意と感謝の気持ちをもっているものであります。

私も出郷以来四十年を経過しましたが、いつまでもたつても蛙の子は蛙、故郷は忘れられないものです。

昭和四十五年に過疎地域振興緊急措置法が議員立法された時、その過疎の文字と重なつて故郷河辺の山河が眼底をかすめたものでした。私もいわば離農の「はしり」をつとめた一人です。

当時と現在では社会状況の差異はあるものの、郷関を去る者の心境は複雑であり物心両面の不安はつきまとうものです。

出郷以来、常に社会の底辺に息をしながら「ホーム」のような漂泊の後に、ようやく安住の地をえたと思つたものか、聞



婦人のユーモアたっぷりの踊りに場内は笑いの渦

やねばし

今日、人々のつき合いを考へてみる時、昔はもっと人々のつきあいが親密で、地域社会における人との結びつきが濃厚だったと記憶している。あいつづかかわしなから田んぼへと小道を通り過ぎていく部落の人々が、なにか温みがあったように思える。

戦後、国民の努力によって、敗戦のあの惨めな生活から立ちあがり、今日の繁栄を作り出し、産業が発展すると同時に国民の生活も豊かになってきた。

そういう社会の大きな動きでいろいろな環境上の問題もたくさん起きており、都市へ人口機能が急速に集中し都市がどんどん大きくなっていく。小さい町や村の場合、地場産業等もなく、人口の流出が激しく、そこに過疎問題が生じて若い人が減り、残っている人も出稼とか共稼ぎがふえ、集まりをもととしてなかなか時間間のやりくりがつかない。そういうことから共同意識が薄れてきてバラバラになり、隣は何をする人ぞ、というような冷ややかな生き方になってくる。

自分の果たさねばならぬ義務は忘却し、自己の権利だけを主張するようになり、次第に善悪の想が悪化していく感がある。

個人主義のかたまり、いがみ合いの社会でなく近隣の結びつきのある新しい社会にふさわしいコミニティ作りを考え、楽しい地域社会を作ることが一番だと思う。それには現在各々に集会所ができたのであるが、たまたま集まりを持ち、話し合う機会をつくりお互いが協力しあつてもっとよき土壌が創作的で地域に即した村づくりができるのではないだろうか。

(T)

今日の繁栄を作り出し、産業が発展すると同時に国民の生活も豊かになってきた。

そういう社会の大きな動きでいろいろな環境上の問題もたくさん起きており、都市へ人口機能が急速に集中し都市がどんどん大きくなっていく。小さい町や村の場合、地場産業等もなく、人口の流出が激しく、そこに過疎問題が生じて若い人が減り、残っている人も出稼とか共稼ぎがふえ、集まりをもととしてなかなか時間間のやりくりがつかない。そういうことから共同意識が薄れてきてバラバラになり、隣は何をする人ぞ、というような冷ややかな生き方になってくる。

自分の果たさねばならぬ義務は忘却し、自己の権利だけを主張するようになり、次第に善悪の想が悪化していく感がある。

個人主義のかたまり、いがみ合いの社会でなく近隣の結びつきのある新しい社会にふさわしいコミニティ作りを考え、楽しい地域社会を作ることが一番だと思う。それには現在各々に集会所ができたのであるが、たまたま集まりを持ち、話し合う機会をつくりお互いが協力しあつてもっとよき土壌が創作的で地域に即した村づくりができるのではないだろうか。

(T)

あすの農作業



水稲管理メモ

◎稲の刈取りと乾燥調整作業

今年の稲作は、好天に恵まれて今年作以上が予想されています。これからの刈取り、乾燥、調整作業の良し悪しにより品質が決定します。稲の刈取りは、早生品種では出穂後四〇日～四十五日といわれており、中庸な株の稲が九割から九割五分まで緑色を失った時が適期とされています。適期を過ぎると籾割れが多くなりますので、やや早目の刈取りが良いでしょう。

籾の乾燥が米の品質に与える影響は大きいものがあります。一等米から五等米までの限度水分は十五％とされています。過乾燥にならないようにしましょう。稲架乾燥の場合、晴天が続きますと二

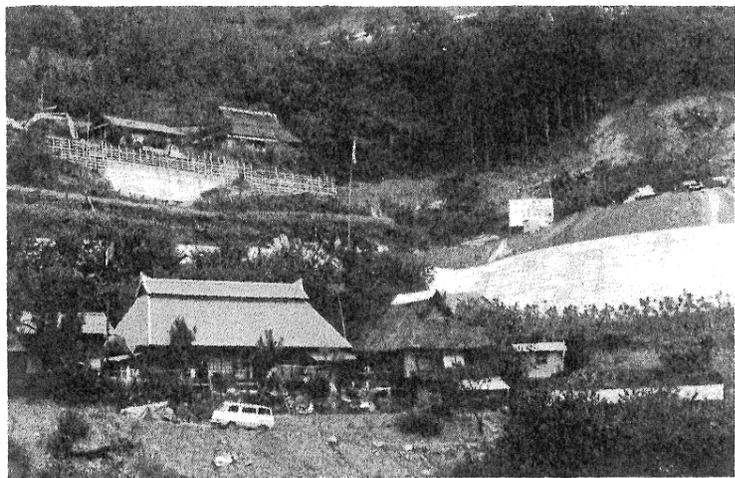
◎粟の収穫後の管理

今年の粟は、早生粟を中心にイガの付きが良く豊作が見込まれますが、粒が小さいようです。これらの作業は間伐、せん定を行ない枝の充実をはかることも、越冬害虫の防除を行ない来年にぞな

えることが大切です。間伐の適期は、収穫後から落葉が終るまでの葉がある時期に行なうようにしましょう。一応の目安としては、地面の日当たりが二〇％から三〇％できるような樹と樹の間隔を二メートル程度にしてください。

害虫の防除は、四～五年生を中心にしてイガアラムシの被害が多くなっており、この虫に被害を受けると未熟なうちにイガが割れ出荷できなくなります。この虫を防ぐには、イガや幹を越冬している卵を防除することが大切です。被害樹のイガは必ず焼却するか土中に埋没して処分してください。

(大洲農業改良普及所)



着々と進む村道川崎稲谷線改良工事

工事現場訪問記 (2)

七曲りに点々ある家のまわりには、草花が一杯咲いて美しい。春から着工した村道川崎稲谷線道路改良工事がドンドン進んでいて、真白い大擁壁がまです目についた。訪れた日はブル二台、レッカー一車一台と工員十数人が、掘削作業や擁壁の裏込め作業に忙しく見え隠れしていた。

このようにして、河辺村の建設工事が日に進んでゆくことを思うと、河辺村の将来が明るく感じられる。

この工事請負者である富永建設社長、大野富士男氏の話では「工事による附近の家に事故がないように第一に考え、次に工員の安全と工事その

ものには最善の技術を尽くして取り組むことをモットーにして」とのことだ。家と家の間を縫って進む道路工事は様々な支障、危険が多い。社長の言のよぐ、最善を尽くしてもらいたいものだ。

今年度の工事は巾四m、延長七五〇mであるが、すでに改良工事が完了している部分に貫通すると、総延長一、一〇〇mの村道川崎稲谷線が開通することになる。

この線は三久保、横山方面、川上、川崎方面から中学校へ、あるいは北平方面へ行くのに大変便利な道路となる。

来年三月末の完了を心まことにしたい。

親子運動会に50人が参加

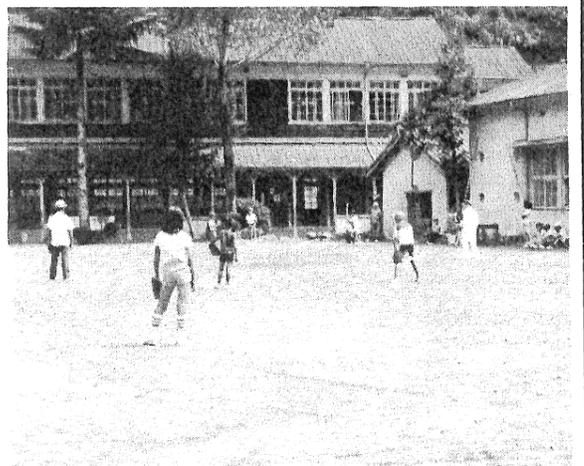
大伍分館長 稲森 雅生

大伍分館では、八月二十一日午前九時半より「親子運動会」を開催して約五十人の参加者でにぎわい一日を親子で楽しく過ごしました。プログラムは十種目程度でしたが、午前中は運動場で楽しめる球技など、午後は室内ゲームが得意なよう配慮したもので、なかでも特にソフト、クロッケー、卓球に人気があつたようです。

参加した方々が、それぞれの種目に汗を流し合い、笑い声がこだまするなかで、体力向上と地区の親睦を図る目的は、ほぼ達成されたようです。

特に子供達にとっては、思い出深い小学校に集まり、親子で遊んだ一日は良い思い出になったことでしょう。

小学校がなくなつた大伍地区においては、この建物(大伍地区)に活用し、今後このような親子運動会を定着させてゆき、地域づくりに活用して、分館活動の活性化を図ってゆきたいと考えていますので、皆ごんごの協力を願います。



親子で楽しんだソフトボール

文化財をたずねて思う

去る八月二十八日、河辺中学校PTA三十九人が、一日研修として村内の文化財めぐりを実施しました。

その目的は、村内にある有数の文化財を知ることは無論のことですが、あわせてお互いが村内の地理と現実を理解することでした。次々と巡って当初の目的を達成することが出来ましたが、私は意外な知識を得ることができました。

文化財に指定されている大木は数百年、どっかと大地に根をおろして、ところせましとはかりに四界を制しており、老木には数々の傷あと、そして生きながらえる苦勞の様子を私達に教えているかのように見えた。

又、封建時代の遺産、建築物、容器等は時代の感覚を後世に伝えるべく、技術と工夫をこらしての

作と感心させられた。

次に無形文化財の一筆観音経本、童謡について特筆したい。一口にして語れば、老翁は見るからにして受ける温厚さと容姿は、さすが無形文化財に指定される価値ある老翁と評価できよう。

そして対話の相は、やはり永年の苦勞と努力、きびしい修養のあとが額に現れ、眼差しがなんとなく人並みはずれた底力を出かされた。

このようにして文化財めぐりが終り静かに考える時、人物はなかなかえられるものではないが、やはり人間は一生を通じて、一日一日が勉強と努力の積み重ねだと理解できる。

さらに私達が、現在植え付けている樹木の中にも、何百年か後世には、今の文化財の評価をされる



天然記念物「大銀杏」を見上げる真剣なまなざし

「来年も又、河辺に来ような」誰からもなくそんな声が聞こえた。バスは丸三日前世話になった中学校を後にして、私達は十分に満足していた。忘れかけていた自然との触れ合い、その中から生まれるやさしさ、おだやかであたたかい心。ソフトボールを共にして下さった中二の野球部の男子、夜、体育館でバレーボールやりました。かと思つて下さった方々、近くのお寺で出合った中三の女の子、学校の先生方、製材所の方……。私達は知り合えた河辺の方々はわすれずかた。しかしどの方も皆さんあたたかく、親切に私達を受け入れて下さった。

中学校の三階からあたりを見渡した時、目に写ったのは濃い緑の木々、その中にボソソと黄緑色のたばこ畑、青い空、白雲、松山ではあることのできない広いグラウンド……。でも何か足りない、何か……。家だ！とから中学校へ通って来るのだらう。中三の女の子は「なんでこんなに人がいるんだらう」と。その夜、見上げた夜空に星がな

「来年も又、河辺に来ような」誰からもなくそんな声が聞こえた。バスは丸三日前世話になった中学校を後にして、私達は十分に満足していた。忘れかけていた自然との触れ合い、その中から生まれるやさしさ、おだやかであたたかい心。ソフトボールを共にして下さった中二の野球部の男子、夜、体育館でバレーボールやりました。かと思つて下さった方々、近くのお寺で出合った中三の女の子、学校の先生方、製材所の方……。私達は知り合えた河辺の方々はわすれずかた。しかしどの方も皆さんあたたかく、親切に私達を受け入れて下さった。

中学校の三階からあたりを見渡した時、目に写ったのは濃い緑の木々、その中にボソソと黄緑色のたばこ畑、青い空、白雲、松山ではあることのできない広いグラウンド……。でも何か足りない、何か……。家だ！とから中学校へ通って来るのだらう。中三の女の子は「なんでこんなに人がいるんだらう」と。その夜、見上げた夜空に星がな

河辺でのキャンプ生活 松山市の一中学生

明るいでもない。いやすかに光っている。あれは星か？ 私の目は河辺で最後の夜見たあの星空を松山で探していたのだ。こんな星に星があつたのかと思うほど、とにかく星はかりだつた。私達の視野を妨げるものは山以外何もなかった。星があまりすぎて、星座がわからないという仲間もいた。流れ星が一つ、二つ、あそこ、あそこ、誰かが願う事かける。河辺の夜一番明るく光を放つもの、それは夜空の星だつた。

私達は完全に、河辺の自然、そしてそこであった人々のあたたかさに魅了されていた。今こうして思い出すが、私の心に河辺で感じたあたたかさ、あふれて来る。河辺へ、来年私は又行く。新しい友を連れ、私の心に満ちたものを感じてもらいたい。

ものがたりは言えない。そのたつたにも私達は、物を大切に育て、つくりあげてゆく日頃の愛情と努力こそ大切なことではないでしょうか。

河辺中学校PTA会長 森川重生

消息

(自) 52・7・11
(至) 52・9・11

- (出生) おめでとーございます
神納 父 正行 増本優子
川崎 繁敏 小川貴之
- (結婚) 末ながくお幸せに
森川好二 (下大成)
富永美代 (大分)
- (死亡) おくやみ申し上げます
椋谷 藤岡久子 (五十六才)
下大成 往見政茂 (六十六才)
国木 栗田重男 (八十八才)

短歌

- 己が夜と虫それぞれに鳴き競う
名残惜しむか長月の夜半
関井 恵美子
- 吹く風は砂を交えし音にして
宵待草のゆれつつひらく
船田 春子
- 古い二人淋しき夕飼の卓にさす
山百合の花ほのかに香りて
中本文江
- 夕光のうつろう色の西の果て
神南山は黙し座しおひ
清水 菊江
- 安じ居し九号台風我が里を
ほどなくそれで稲穂かたむき
稲森 ユキエ
- 夕かけの澄みて流るる秋知川
ほとりのせら木秋つきにけり

